

編集後記

アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル (AJJ) 第 11 号は、実践報告 3 編、調査報告 4 編、短信 3 編の計 10 編の掲載となりました。

今号もライティング関連の論考から、日本語教師の専門性、古典教育まで多様な論考となっています。その中でも注目したいのは高橋氏・三宅氏・前川氏による論考で、小学校 3 年生の児童を対象にしている点です。AJJ 第 10 号までに掲載された実践をみると、高校生を対象とした実践が二例あるのみで、それ以外は大学・大学院生、留学生別科生や日本語学校生が対象です。大学入試の改革が初等教育にも影響を及ぼし、それによりアカデミック・ジャパニーズも大きな広がりを見せています。AJ 研究のさらなる活性化が期待されます。

このたび、AJJ はオンライン ISSN を取得しました。今後は J-STAGE への登録手続きを進め、AJJ の論考がより多くの読者の目に留まるようにしていきます。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。

(編集委員 N. T. 記)

刊行：2019 年 8 月

編集委員* (**は委員長)・アドバイザー五十音順

*大島弥生 (東京海洋大学)・石澤徹 (東京外国語大学)・伊藤奈津美 (早稲田大学)
門倉正美 (元横浜国立大学)・*小森万里 (大阪大学)
佐藤勢紀子 (東北大学)・*鈴木秀明 (目白大学)・**田中信之 (富山大学)
寅丸真澄 (早稲田大学)・トンプソン美恵子 (山梨学院大学)・中山亜紀子 (広島大学)
ボイクマン総子 (東京大学)・松本明香 (東京立正短期大学)・宮崎七湖 (新潟県立大学)
三代純平 (武蔵野美術大学)・村上康代 (関西大学)・茂住和世 (東京情報大学)
山口麻子 (テンプル大学ジャパンキャンパス)・*吉田美登利 (東京工業大学)
*脇田里子 (同志社大学)